

お知らせ

愛媛大学医学部附属病院では、医学・医療の発展のために様々な研究を行っています。その中で今回示します以下の研究では、日本産科婦人科学会が所有するデータベース(周産期登録、生殖に関する諸登録)を使用します。この研究の内容を詳しく知りたい方や、データベースを利用することをご了解いただけない方は、下記【お問い合わせ先】までご連絡下さい。

【研究課題名】

「本邦における体外受精により43歳以上の年齢で妊娠した女性の周産期予後等の実態調査」

【研究機関】 愛媛大学医学部附属病院

【研究機関の長】 杉山隆（病院長）

【研究責任者】 愛媛大学医学部附属病院

安岡 稔晃（産婦人科 助教）

【研究の目的】

2022年度より、わが国において不妊治療の保険適用が開始された。また、2021年4月から妊孕性温存に対し、国の研究促進事業としての経済的支援が開始された。不妊治療の保険適用の対象、研究促進事業における凍結保存も年齢上限は男女ともに43歳未満（凍結保存時）である。43歳は女性の妊娠・出産を考える上で、制度上の大きな分岐点となる。しかし、わが国では、2019年には、43歳以上の女性において、体外受精により妊娠し1678名が出生している。体外受精の技術の向上や、妊孕性温存の研究促進事業における凍結保存が増加し、今後は40歳前後で凍結保存した検体を用いて43歳以上で妊娠、出産される例が増加することが考えられる、そのため、本研究では43歳以上で妊娠、出産することの問題点や周産期転帰を明らかにすることを目的とする。

【研究の方法】

2015年1月～2019年12月までの間に日本産科婦人科学会のART登録事業のデータベースで得られた43歳以上で体外受精によって妊娠した女性を対象とする。日本産科婦人科学会の周産期登録事業参加施設で分娩となった43歳以上

の症例を対照群とする。研究対象者について、下記の臨床情報をデータベース調査時における検討項目は以下の通りである。

妊娠分娩歴、妊娠時年齢、妊娠様式（排卵誘発や体外受精、凍結胚を用いたかどうか）、分娩週数（流産、早産）、妊娠高血圧症候群（母体適応による妊娠中断の有無）、妊娠糖尿病（インスリン使用の有無）、分娩方法、児の出生体重、Apgarスコア、形態異常の有無

【共同研究について】

この研究は、厚生労働省科学研究の一環として行っています。収集されるデータは個人情報の漏洩のリスクを低減させるために、すべて、匿名化された研究 ID を用いて事務局が郵送または電子媒体にて収集する。」

【個人情報の取り扱い】

本研究では、日本産科婦人科学会の周産期委員会、生殖・内分泌委員会および臨床研究審査小委員会での審査ののち、データを受け取ります。データは日本産科婦人科学会よりパスワード付きのファイルとしてダウンロードします。その際、個人名や入院番号などの個人情報は削除されており、研究対象者個人を特定できる情報を含みません。また、研究結果は学術雑誌や学会等で発表される予定ですが、発表内容に個人を特定できる情報は一切含まれません。

さらに詳しい本研究の内容をお知りになりたい場合は、【お問い合わせ先】までご連絡ください。他の患者さんの個人情報の保護、および、知的財産の保護等に支障がない範囲でお答えいたします。

【試料・情報の管理責任者】

愛媛大学医学部附属病院産婦人科 安岡稔晃

<試料・情報の提供機関の長>

公益社団法人 日本産科婦人科学会 理事長 木村正

【お問い合わせ先】

連絡先

愛媛大学医学部附属病院産婦人科 安岡稔晃

TEL:089-960-5379

FAX:089-960-5381